

通し番号	3974
------	------

分類番号	15-25-14-01
------	-------------

(成果情報名) ダイアジノン粒剤(5%)の土壌表面散布又は表面混和处理はカブラヤガ幼虫に対し効果的な防除方法である
[要約] カブラヤガ幼虫防除のため、ダイアジノン粒剤(5%)の効果的な処理方法は土壌混和ではなく表面散布又は表面混和であった。
(実施機関・部名) 神奈川県農業総合研究所 農業環境部 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

平成15年3月10日の改正農薬取締法の施行に伴い、使用できる農薬が著しく少ないマイナー作物等に対する特例措置として経過措置が認められた。申請された薬剤のうち、ナズナ、ハハコグサ、ハコベ、コオニタピラコのネキリムシに対するダイアジノン粒剤(5%)の効果的な処理方法の検討を行う。

[成果の内容・特徴]

- 1 試験は、各区内寸W58cm×D17cm×H15cmのプランターに、コマツナ‘夏楽天’100粒を種し行った。試験薬剤は1鉢当たりダイアジノン粒剤(5%)を6kg/10aになるように処理した。対照薬剤はイソキサチオン粉粒剤を6kg/10aになるように処理した。処理方法は、表面から10cmの深さまでの土壌混和、表面に処理し軽く混和及び表面処理の3種類とした。また、それぞれの処理方法でマルチの有る区と無い区を設けた。
- 2 カブラヤガ幼虫防除のためのダイアジノン粒剤(5%)の処理方法は、土壌混和(深さ10cm)より表面散布又は表面混和の方が勝っていた(図1~4)。
- 3 マルチの有無による死虫数は処理区により異なるが、平均するとマルチ無しの方が多かった(図1、2)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 薬剤の使用に当たっては、ダイアジノン粒剤(5%)の登録に注意が必要である。
- 2 農薬の登録上様々な処理方法がある場合、ダイアジノン粒剤(5%)では効果的な処理方法として土壌表面散布又は表面混和を選択することができる。

[具体的データ]

表1 試験区の概要

試験区	処理薬剤	処理量	薬剤処理方法	カブラヤガ	マルチ
1区	無処理	-	-	放飼	無
2区	無処理	-	-	放飼	有
3区	ダイアジノン粒剤(5%)	6kg/10a	深さ10cm土壌混和	放飼	無
4区	ダイアジノン粒剤(5%)	6kg/10a	表面混和	放飼	無
5区	ダイアジノン粒剤(5%)	6kg/10a	表面処理	放飼	無
6区	ダイアジノン粒剤(5%)	6kg/10a	深さ10cm土壌混和	放飼	有
7区	ダイアジノン粒剤(5%)	6kg/10a	表面混和	放飼	有
8区	ダイアジノン粒剤(5%)	6kg/10a	表面処理	放飼	有
9区	イソキサチオン粉粒剤	6kg/10a	表面処理	放飼	無
10区	イソキサチオン粉粒剤	6kg/10a	表面処理	放飼	有
11区	無処理	-	-	無放飼	無
12区	無処理	-	-	無放飼	有

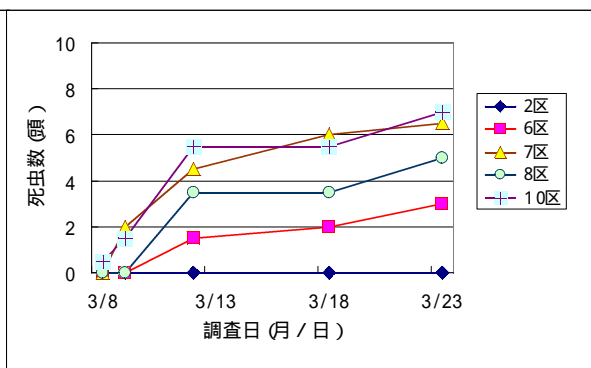
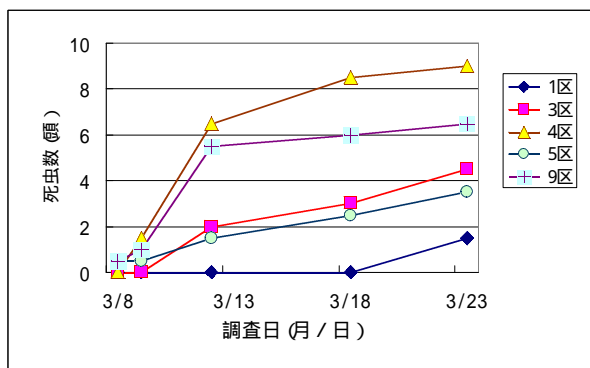


図1 カブラヤガ幼虫累積死虫数(マルチ無し)

図2 カブラヤガ幼虫累積死虫数(マルチ有り)

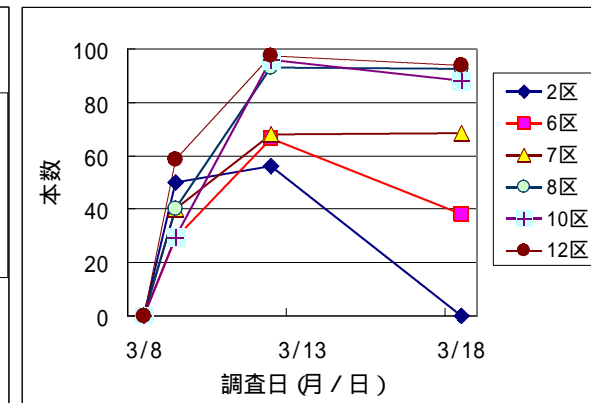
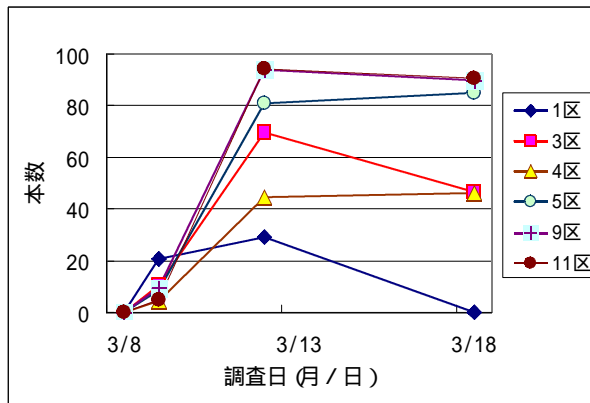


図3 コマツナ株立数(マルチ無し)

図4 コマツナ株立数(マルチ有り)

[資料名]平成15年度試験研究成績書(農業環境)

[研究課題名] マイナー作物等緊急農薬登録促進支援対策

[研究期間] 平成15年度

[研究者担当名] 深澤智恵妙、小川潤子、草野一敬